



平成22年度 文化庁日本語教育大会(2010.8.27)
パネルディスカッション「標準的なカリキュラム案の可能性」

標準的なカリキュラム案の 特徴と課題

金田 智子

発題の概要

I. 「標準的カリキュラム案」の特徴

1. 基盤、基
2. 目安、例

II. 「標準的カリキュラム案」の課題：展開可能性

1. 事例間・行為間の関連付け
2. 「人の生涯」を意識した関連付け

☆海外の例を適宜参照

特徴1:「基盤」「基」

1. 学習者にとって:「生活上の基盤を形成する上で必要不可欠であると考えられる生活上の行為の事例とそれに対応する学習項目及び社会・文化的情報を列挙したもの」
2. 関係者(含.学習者)にとって:「生活者としての外国人」に対する日本語教育の具体的内容を検討する際の基

日本での
生活で
必要とな
る能力



教育・
子育て
を行う
ための
能力

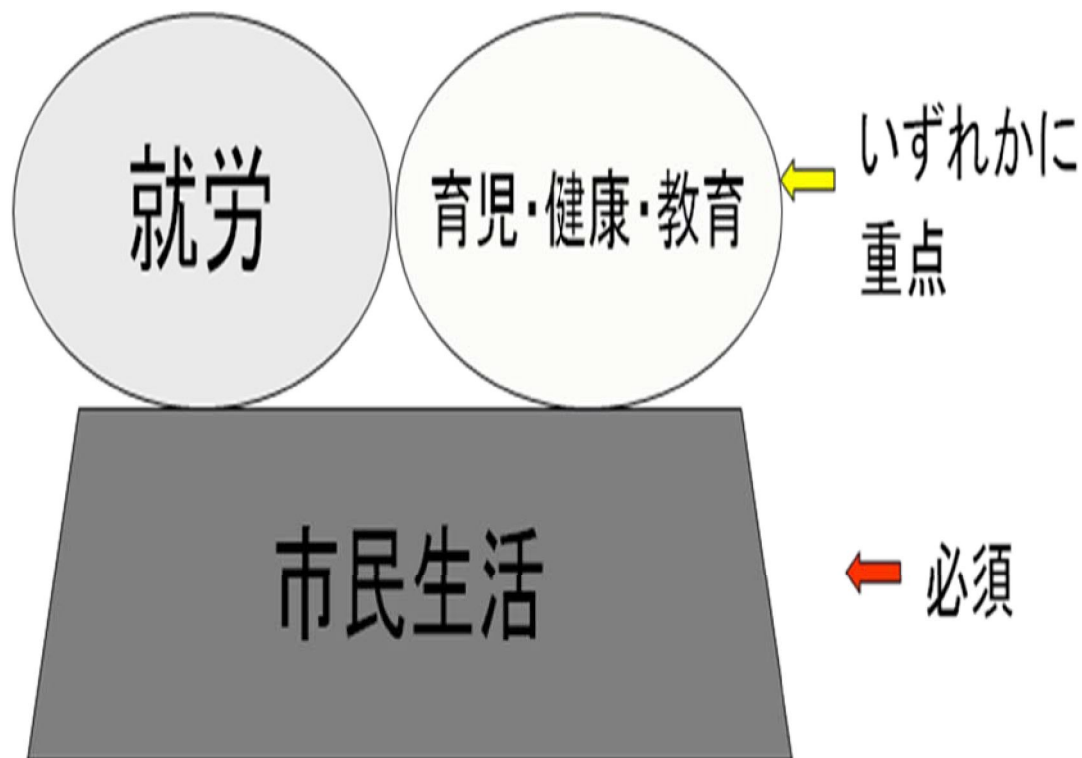
働くための
能力

生活上の基盤を形成する上で必要
不可欠な能力(標準的カリキュラム
案)

「基盤」「基」

- 行動達成目標のみを指定
 - ・・・学習順序、学習時間に決まりはない
 - * 示された学習時間は「目安」
 - ・・・学習者の能力により、取捨選択可能
 - ・・・学習者の状況により、他が優先される可能性もある
- ☆しかし、全ての人が持つべき「基盤」

オランダの目標基準との比較



☆「就労」「育児・健康・教育」のいずれかについても選択的必修

←いずれかの立場で、その社会に存在することを前提

←一方で身につけた能力が、もう一方でも発揮される可能性

特徴2:「目安」「例」

- 「～必要な生活上の行為の事例と生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素及びそれらに要する学習時間の目安から成っている」「学習者の状況に合わせて(学習時間を)検討する」
- 学習項目の要素の中の「やり取りの例」

「目安＝60時間」の意味

■「学習者の状況に合わせて検討する」

⇒学習に費やす時間の増減可能性

☆「学習者の状況」: 既習度、外国語学習歴、学習の経験、自習可能性、生活の中での日本語使用の度合い、等

＜参考＞

ドイツ: 同一の到達目標に対し、450～900時間の幅

オランダ: 時間の基準なし。データの蓄積により、教育レベルによる目安有り。

「(やり取りの)例」

- さまざまなやり取りが展開される可能性
- 使わねばならない文法、語彙はない
- 行為・行動中心の考え方

例.<0801260 返品・交換をする>

A:すみません、サイズが合わなかったので交換していただけますか。

A':あの一、これ、昨日、買いました。少し、小さいです。
すみません、交換、お願いします。



課題＜展開可能性＞：関連付け

1. 事例間・行為間の関連付け
2. 「人」に焦点を当て、「生涯」を意識した関連付け
 - (1) すでに知っていること／できることからの関連付け
 - (2) 将来に向けての関連付け（「基盤」以降への関連付け）

事例間・行為間の関連付け(例)

- (0100160)隣人に容態を伝えて助言する:隣人に適切な医療機関の所在を聞く
 - (0802030)希望の食べ物を扱う店を探す
＝いずれも、状況(症状、希望)を述べ、情報要求する行為
- ☆場面・行為は異なっているにもかかわらず、共通点有り
関連付けを行うことにより
- ⇒「嵩」の縮小
 - ⇒応用可能性の意識化

日本での生活
で必要となる
能力



教育・
子育て
を行う
ための
能力

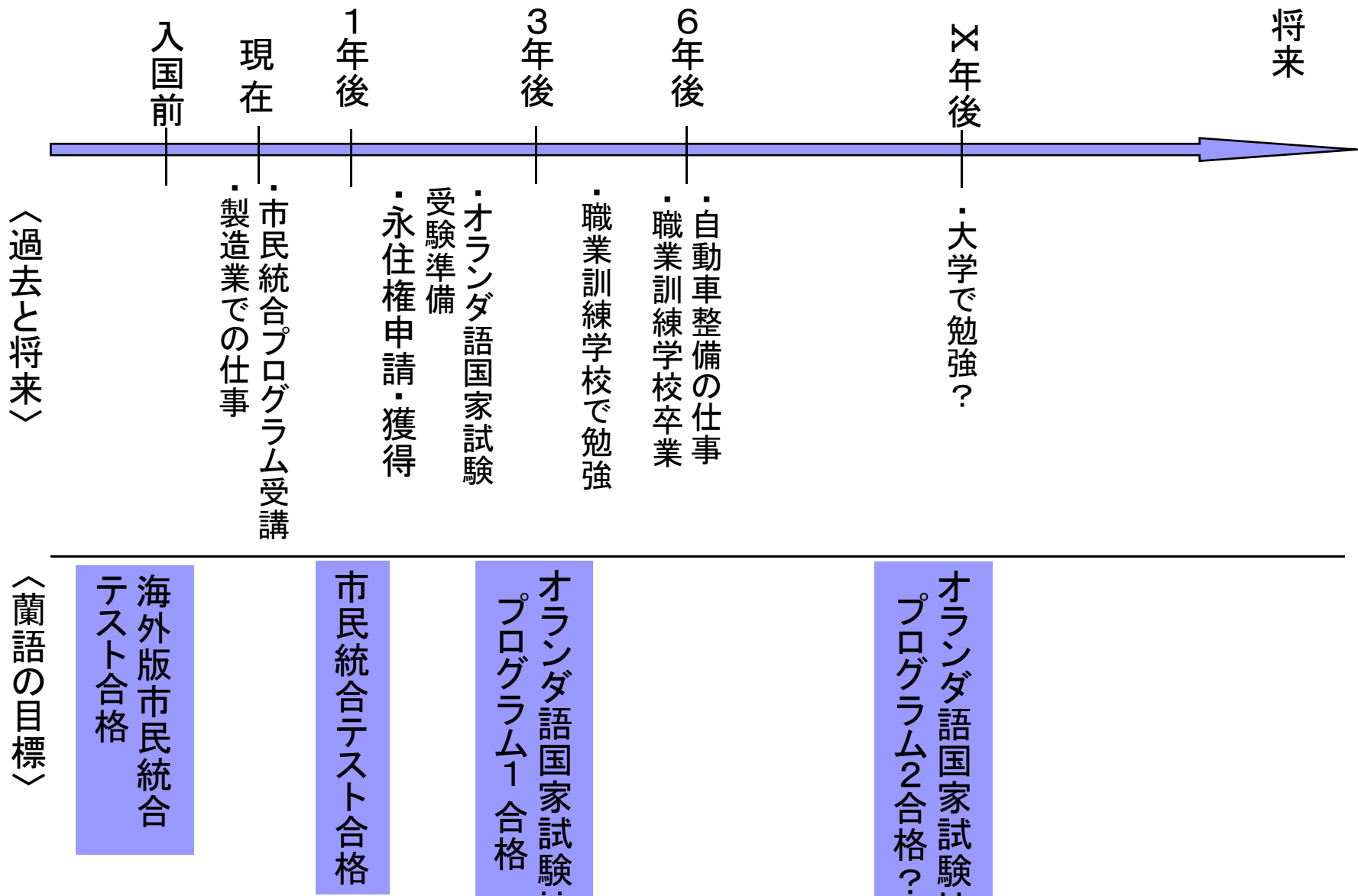
働くための
能力

専門性を高めるための能力

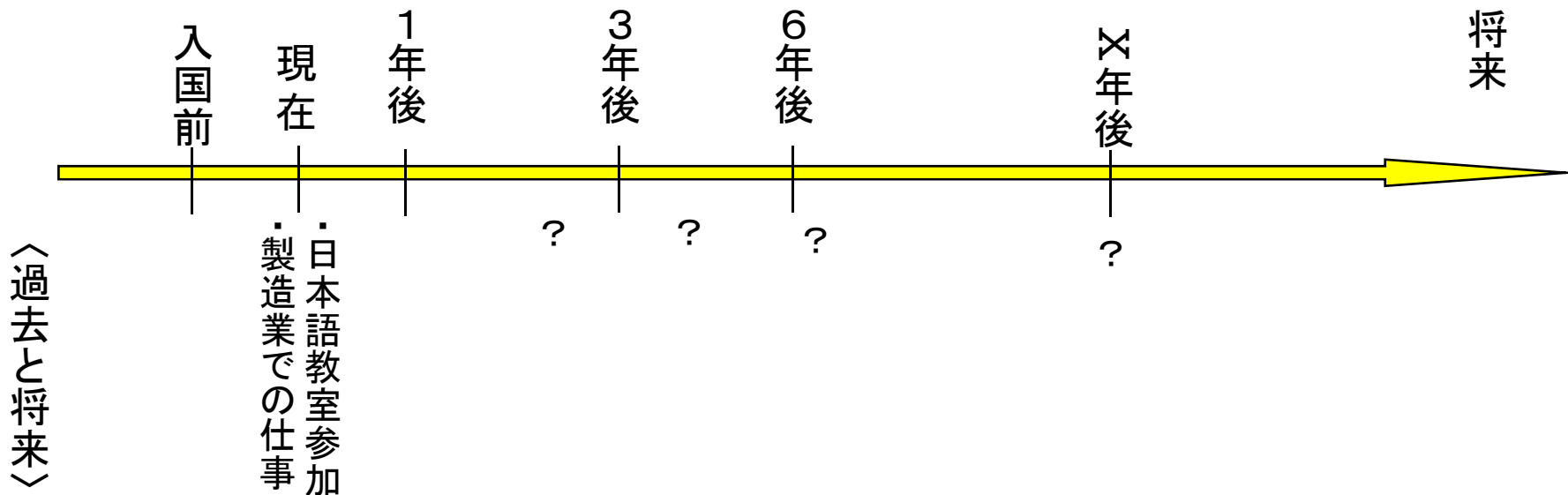
生活上の基盤を形成する上で
必要不可欠な能力

これまでの人生で
培ったさまざまな能力

将来に向けての関連付け:オランダ在住モーさんの場合



将来に向けての関連付け: 日本在住ヤンさんの場合



日本語の目標

標準的なカリキュラム案に基づく
「〇〇カリキュラム」修了

その先は？

まとめ:「標準的なカリキュラム案」は、

- 日本に暮らす外国人にとって必要不可欠なものを示しているが、自由に使いこなすことが可能なもの
- 独立して存在するのではなく、一人一人の人生の中で、過去から現在、現在から未来をつなげるもの